

『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』 授業での活用事例

専門学校・大学・塾・その他編

食（生活）と健康

P2・・・辻調理師専門学校 対象：1年生
調理師養成施設規定科目 食生活と健康

総合学習

P4・・・一般社団法人 壱岐みらい創りサイト
小学校海洋教育プログラム 対象：小学校3～6年生
中学校環境教育プログラム 対象：中学校1年生

アカデミック日本語

P8・・・県立広島大学 対象：留学生
プロジェクトワーク「地球規模の課題と私にできる貢献」

教科指導法（社会）

P10・・・九州産業大学 対象：3年生
SDGsの目標・内容とターゲット・指標の理解及び取組例について

実践コミュニケーション論

P12・・・岡山大学 対象：1～4年生
実践コミュニケーション論

地域医療システム論

P14・・・広島国際大学 対象：1～4年生
SDGsから中山間地域の地域医療システムを考える

ワークショップ

P16・・・益田市吉田公民館 対象：子ども～大人
SDGsワークショップ実施報告書

オンラインフリースクール

P18・・・まなびバ！シリウス 対象：小学生・中学生
SDGs授業実践報告

調理師養成施設規定科目 食生活と健康

学校名:辻調理師専門学校 名前:東 庸介

対象	1年	単元名	『調理師と健康』
科目	食生活と健康	目標	食と健康にかかわる諸問題や、調理師に求められている役割などについて、社会的な背景をもとに説明できる。
時間	90分		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

飲食業界の社会的背景から健康にかかわる要素をあげることができる。

授業内容

調理師養成施設規定科目である「食生活と健康」という科目は、平成25年の「調理師法施行規則の一部を改正する省令」により、従前の「公衆衛生学」に「衛生法規」から調理師法、健康増進法、食育基本法など健康づくりや食生活に関する法規が含まれることとされ創設された。

本校では学科が3つ存在するが、3学科とも入学年次の学生に対し年間45コマ(90分)で配当されている。この45コマを30コマ(通年:『食生活と健康 I』として実施)と15コマ(半期:『食生活と健康 II』として実施)に分けて授業を構成している。また年間を4期(前期前半、前期後半、後期前半、後期後半)に分け、それぞれを1つの単元と設定して授業展開を行っている。

アイデアブックはそのうちの I 前期前半『調理師と健康』の中で使用した。

前期前半はそれぞれ7回の授業が配当されており、1～5回目は講義形式、6・7回目は個人ワークやグループディスカッション等を通して理解を深めた。

6回目の授業では事前課題として『1～5回目の内容がSDGsの17の項目の何に当てはまるか?』についてのレポートを課した。

7回目は『自分が興味を持ったSDGsの項目とその理由。理由については、それが食に携わる者(調理師)としてどのように貢献できるか?という視点を込める』についてについてのプレゼンテーションを行った。

調理師養成施設規定科目 食生活と健康

学校名: 辻調理師専門学校 名前: 東 庸介

授業内容2

食生活と健康 I 6回目では前述の通り事前課題を与え、自分がやってきた課題を他者に共有し、「いろいろと知る」というインプットの回として設定した。7回目は6回目を踏まえて「他者に伝える」というアウトプットの回と設定した。

この授業の中で学生が着想を得るためのツールとしてアイデアブックを使用した。



子どもたちの反応・感想

小学校海洋教育プログラム

一般社団法人 壱岐みらい創りサイト 村部 茂

対象	小学校3～6年
科目	総合学習
時間	3～10時間
参考資料	アイデアブック等

単元名

壱岐型海洋教育

目標

「壱岐型海洋教育」として、児童の発達段階を考慮しつつ、壱岐の住民にとって馴染み深い「海」を題材とし、壱岐の特色を最大限活かしながらSDGsへの理解と行動を促す。

壱岐の小学生、教職員、島民、来訪者らが「壱岐と海とのつながり」への理解を深めるコンテンツ・教材を開発し、学校教育カリキュラムに組み込むことで、壱岐の持続可能な発展を担う人材を育成する。

期待できる学習効果

- ・壱岐や自分の住む地域の自然や歴史を「海」という視点から理解することで、地域の豊かさを把握する力
- ・壱岐や自分の住む地域の現状や課題を多角的に把握することで、愛着をもちつつ探究的視点を持って地域へかかわっていく力
- ・自然や歴史、地域の人々とかかわるなかで自らの考えを育み、他者との対話の中で主体的に表現していく力

授業内容

海を題材とした体験学習を軸に、学校別の事前学習と事後学習を行い、壱岐の海から地域について学んでもらう。

- ・対象 : 小学生(3～4年生 or 5～6年生)
- ・授業回数 : 5回
 - 第1回 : 海洋教育への導入
 - 第2回 : 海のトピックを体験学習につなげる
 - 第3回 : 体験学習
 - 第4回 : 体験学習の振り返り
 - 第5回 : 学びをまとめ表現につなげる
- ・授業形式 : ワークショップ(グループワーク)



オンライン授業・ワークショップの様子

小学校海洋教育プログラム

一般社団法人 壱岐みらい創りサイト 村部 茂

授業内容2

①壱岐市立初山小学校

- ・テーマ :【食】海の恵みを親子で学ぼう
- ・体験学習: 壱岐の海の食材を使った郷土料理の調理実習を行い、親子で味わいながら海の豊かさを実感する。一見海と関係のない食材も海から恩恵を受けていることを理解し、自然の豊かさや伝統を大切にする気持ちを養う。

②壱岐市立鯨伏小学校

- ・テーマ :【歴史】豊かな壱岐の海を未来につなぐ
- ・体験学習: 昔の壱岐の海について老人ホームの入居者と交流する。また、漁協、市の水産課、企業、住民に海に関する聴き取りを行う。過去と現在の海についての情報をまとめ、将来の壱岐にどのような海を引き継いでいきたいか提案する。

③壱岐市立筒城小学校

- ・テーマ :【環境】磯の豊かさと生物の多様性
- ・体験学習: 磯体験を通して、生物多様性について理解する。壱岐で生じる磯焼けや、それによる問題について考える。世界の海の生き物の多様性が脅かされていることを知り、その対策の必要性について意識啓発する。

子どもたちの反応・感想

体験学習を通じて、小学生が壱岐の海の豊かさを理解し、意識改革や行動変容が起きている様子が確認できた。「子供がテレビやニュースでのSDGsや地球温暖化の報道に興味を持つようになった(保護者)」という声もあった。

①小学生の声

- ・今と昔では、おなじばしょでもけしきがぜんぜんちがうことを初めて知った。
- ・海にいったら、ゴミ拾いをして、海のゆたかさを守りたい。
- ・(授業を)きっかけにもっと海のことを知りたいと思った。



調理実習の様子



老人ホーム訪問の様子



磯体験の様子

中学校環境教育プログラム

一般社団法人 壱岐みらい創りサイト 村部 茂

対象	中学校1年	単元名	住みつづけたいまちづくり運動
科目	総合学習	目標	中学生へのワークショップ実施による意識改革・行動変容を促す直接効果と、中学生の活動を通して地域住民(大人)をナッジする間接効果により、住民が自分たちの地域の未来を真剣に考え、地域の活性化を図る。
時間	10時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・知識及び技能:探求的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探求的な学習のよさを理解できるようにする。
- ・思考力、判断力、表現力:実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- ・学びに向かう力、人間性等:探求的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

授業内容

全5回の授業は、バックキャスト思考に基づいた構成としている。
望ましい未来の姿を描き、その姿から現在を見て課題を発見し、課題解決のための計画を立て、実行するという流れを順に進めることで、より高い目標の実現を目指す。
夏休みの活動では、生徒たちが計画を進める上で生じた疑問について、市役所や地域のお店の大人に意見を聞くことで、大人自身が地域課題に目を向け、行動に移すことを促す。

- ・対象 : 壱岐市立郷ノ浦中学校 中学1年生
壱岐市立勝本中学校 中学1年生
壱岐市立芦辺中学校 中学1年生
壱岐市立石田中学校 中学1年生
- ・授業回数: 5回(計9時間)+夏休みの活動+最終発表会
- ・授業形式: ワークショップ(グループワーク)



グループによるワークショップの様子

中学校環境教育プログラム

一般社団法人 壱岐みらい創りサイト 村部 茂

授業内容2

- ①第1回テーマ:住みつづけたいまちを考える
 - ・学習内容 :将来(10年後)の自分の姿を考える
2030年に住んでいたい壱岐の姿を考える
- ②第2回テーマ:住みつづけたいまちにするための計画を立てる
 - ・学習内容 :2030年に住んでいたい壱岐の姿にするために自分たちにできることを考える
夏休みの活動計画を立てる
- ③夏休みテーマ:大人の意見を聞く、住みつづけたいまちにするための活動をはじめるところや、知りたいこと・疑問に思ったことを大人に聞く、自分たちにできる活動を始めるところ
- ④第3回テーマ:夏休みの活動成果を整理する
 - ・学習内容 :発表テンプレートを使って夏休みの活動成果の発表構成を考え、足りない情報を整理する、足りない情報をインターネットや本で調べる、発表資料を作成し始める
- ⑤第4回テーマ:活動成果を伝えるための資料を作る
 - ・学習内容 :発表資料を作成する
- ⑥第5回テーマ:活動成果をみんなに伝える
 - ・学習内容 :チームごとに発表する
他のチームの発表を評価する、SDGs活動宣言を作成する

子どもたちの反応・感想

中学生からインタビューを受けた大人へのアンケート結果や、プログラム実施後に中学生や大人にヒアリングした結果から、本活動による中学生への意識改革・行動変容の直接効果、及び周囲の大人をナッジする間接効果の双方を確認できた。

①中学生の声

- ・SDGsには自分たちにできることがある。大きな目標ではなく、小さな目標をコツコツとやっとうと思う。
- ・地域のことが良く分かった、もっと深く知りたいと思った。



ワークショップの様子



夏休みの活動の様子



発表会の様子

プロジェクトワーク「地球規模の課題と私にできる貢献」

学校名: 県立広島大学 名前: 中石ゆうこ

対象 留学生(大学)

科目 アカデミック日本語

時間 水or金 1・2限

参考資料

アイデアブック、論文、新聞記事、インターネット記事など

単元名

留学生向けの外国語科目「アカデミック日本語Ⅱ」のプロジェクトワーク

目標

- 1 大学の学修場面にふさわしい表現を使って、関心のあるトピックについて発表できる。
- 2 発表がよくまとまり、「地球規模の課題と私にできる貢献」というテーマに合わせて、情報が過不足なく伝えられる。
- 3 発表を聞いた人が、何か活動を始めたくなるような働きかけができる。

期待できる学習効果

- ・その1 関心のあるトピックについて発表に向けて構想をすることで、大学の学修場面にふさわしい表現をコンテンツから学ぶことができる。
- ・その2 参考文献の種類を適切に評価して、学術的にふさわしい資料を収集できるようになる。
- ・その3 自分の現在、または将来の生活や専門がSDGsにどのようにつながるか自覚できる。
- ・その4 SDGsの取り組みを留学生の出身国・地域に波及できる。

授業内容

授業内容(第3ターム[4期制の3学期目]に、計7回の授業を行った。)

授業回	内容	宿題
1回	SDGsとは何か	ワークシート1
2回	目標を決める/文献探し	ワークシート2
3回	文献決定/引用のしかた	ワークシート2
4回	PPT作り	ワークシート3、PPTの内容を考える
5回	PPT作り/原稿づくり	PPT、原稿の内容を考える
6回	PPT、原稿完成	発表の練習
7回	発表	

留学生は日本国内外でオンラインで受講した。プロジェクトワークを通して、スライドを用いたプレゼンテーションを日本語で行い、その録画を行った。以下、発表のポイントを挙げる。

◆タイトル

目標番号と自分の考えたタイトル、発表者の名前

◆背景

自分が目標を選んだ理由

- ・何が問題か、現在どういう状況があるか
- ・目標に取り組まなかった場合、どんな未来が予想されるのか (次ページに続く)

プロジェクトワーク「地球規模の課題と私にできる貢献」

学校名: 県立広島大学 名前: 中石ゆうこ

授業内容2

◆社会のアクション

- ・社会では、すでにどんな取り組みが行われているか
- ・社会の取り組みの評価(良いところ、改善できるところ)

◆私のアクション

- ・自分自身は、日常生活でどんな取り組み(アクション)を行っているか
※写真を準備する。

◆私のアクション2

- ・自分は、将来、どんな取り組み(アクション)を行いたいか
※ほかの人が取り組みをイメージできるように、具体的に説明する
- ・どんな課題が残されているか
- ・目標を達成するために、ほかの人とつながることで、もっとできることはないか

◆聞いている人に一言

◆参考文献

必ず、以下のすべてのジャンルの文献を引用する。

引用文献の書き方によって記載する。

1. 新聞記事
2. 論文
3. グラフ(報告書・論文などの情報・インターネット上の情報)
4. 動画

成果物と留学生の感想

留学生の感想を抜粋して紹介する(原文ママ)。

留学生A: 何よりも重要なのは自分の問題意識だと考える。この世界における問題はすべて解いているわけではない。したがって、自分の周りから問題を探し出し、それを解決するのは大学教育を受けてきたわれわれの果たすべき役割だと思う。

留学生B: 資料の収集と分析の面から言うと、今ネット上で様々な情報が手に入りやすいですが、その中から本当に自分の内容に合った情報を洗い出すことがさらに重要だと思います。

留学生C: 正直言って、いつも17の目標を完成することが私たち一般人にあまり関係がないと思いましたが、プロジェクトワークの活動の発表が終わりましたら、自分がやるべきとできることを認識し、考え方の不足も改めました。



SDGsの目標・内容とターゲット・指標の理解及び取組例について

学校名:九州産業大学

対象	大学3年生	単元名	SDGsの目標・内容とターゲット・指標の理解及び取組例について
科目	教科指導法(社会)Ⅱ	目標	その1 SDGsについて理解する その2 17の目標のそれぞれについて目標・内容とターゲット・指標の理解及び取組例について理解する その3 事例研究から自分事として考え、自分はどのような行動をとるかに ついて考えことにつなげる
時間	100分		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsの全体像を理解できるようになる
- ・その2 SDGsの17の目標等について、取組例を知り、その内容を理解できるようになる
- ・その3 自分事として考え、行動につなげることができるようになる

授業内容

<講義回数> (講義3/14回: 1回100分)

第1回 SDGsとは何か?: SDGsの17の目標について

SDGsの目標1~目標5の内容とターゲット・指標の理解及び取組例について

第2回 SDGsの目標6~目標12の内容とターゲット・指標の理解及び取組例について

第3回 SDGsの目標13~目標17の内容とターゲット・指標の理解及び取組例について
まとめ

<内容>

- ・毎回、学生自身に興味関心をもった目標を1つ選ばせ、『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』の中から、関連する内容について読み取り、自分の考えをまとめさせた。
(本講義は緊急事態宣言下であったため、オンラインで実施した。個人での深まりを見られたが、グループでの話し合いが十分できなかったため、新たな気づきや違う価値観の共有などが十分ではなかった。)

SDGsの目標・内容とターゲット・指標の理解及び取組例について

学校名:九州産業大学

授業内容2

<授業の基本的な流れ>

- 1 目標○～○のうち、取り組んでみたい目標を1つ選び、選んだ理由を書く。
- 2 テキストを見て、選んだ目標と関連するところを読み、参考になったことを書き出しまとめる。(発表する)
- 3 選んだ目標が2030年にどのようなようになっていたら嬉しいか、まとめる。その際、ターゲットを参考にすること。そんな未来にするためにはどうすればよいか、アイデアを出す。
- 4 そのために自分ができることを書き出す。
- 5 (3回目:まとめとして)
3回の授業を振り返りまとめとして、SDGs川柳を作成する。

<振り返り>

- ・毎回良い事例を紹介し、提出された内容のどこが良いか、どこが不十分かを教員が解説することにより、考えがさらに深まるように指導支援を行った。
- ・SDGs川柳については、最初に教員が作成した川柳を紹介することにより、教員自身も授業に参加している一人であることを示した。次に学生の川柳(体調不良等の欠席者分を除く)を紹介し、様々視点からの課題や今後の願いなどの共有を図った。

子どもたちの反応・感想

SDGs川柳

- ・「一歩ずつ 未来を変える 僕たちで」・「気付こうや そこに溜まってる 消しかすが」
- ・「偽善でなく みんなでやろう 地球のために」
- ・「だれがやる 他人任せが 遅らせる」・「SDGs 皆で取り組み 守る地球」
- ・「みんなの力で みんなが住みやすい 世界にしよう」・「絶対に 取り残さない 誰一人」
- ・「男女でも 同じ人には 変わらない」・「ごみ拾い 運も拾って 好釣果」
- ・「考えよう みんなが笑顔で いれる世界」・「持続型 子孫のためにも 取り組もう」
- ・「平和への 活動まずは 自分から」・「ポイ捨てが いつかあなたに もどるかも」
- ・「話すより その場へ行って 見て動く」・「手をつなぎ みんなでニコリ 支えあい」
- ・「エコバッグ 3円以上の 価値がある」

実践コミュニケーション論

学校名: 岡山大学 名前: 鈴木真理子

*環太平洋大学での科目「SDGs入門」では、2022年度に活用させていただく予定です

対象	1～4年	単元名	
科目	専門科目	チームで働く力を養う PBL (Problem Based Learning)	
時間	100分	目標	
参考資料	アイデアブック等	その1 他者の思考と自分の思考の違いの生じ方と、それによって生じる価値を理解する その2 個人の意思決定とチームの意思決定の違いを認識し、チームによる思考や意思決定のポイントを理解する その3 チーム活動を通じて価値を導き出すことの難しさと大切さを理解し、チーム活動を円滑に進めるための技法を習得する	

期待できる学習効果

- ・その1 主体性や実行力の向上
- ・その2 課題発見力、創造性、思考力の向上
- ・その3 柔軟性、発信力、ストレスコントロール力の向上

授業内容

授業概要

産学連携かつ学部横断型の課題解決型学習(PBL)の手法により、グローバル社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な「社会人基礎力」のうち、特に「チームで働く力」を鍛える授業である。

前半は、講義と討論実践を通じて、チーム活動を円滑に進めるための技法、協働して独創的な発想を生み出す技法などを習得する。後半は、経済学部生と工学部生が混成チームを組み、企業や地域社会が抱える現実の課題に対し、チーム毎の解決策を考える。成果発表会では、企業幹部やマスコミの方々に前にプレゼンし、いかに協働して独創的な発想を生み出せたかを競う。

今年度は、岡山村田製作所への提案。テーマは「5G × SDGs × 岡山村田製作所で世界を良くする提案」。

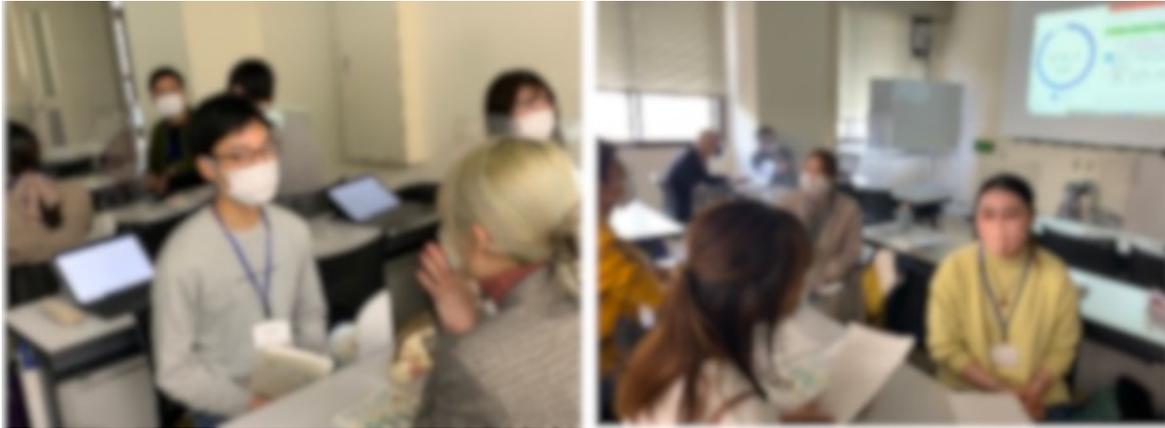
授業の詳細、様子など

http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/

実践コミュニケーション論

学校名:岡山大学 名前:鈴木真理子

授業内容2



『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』は、副読本として学生に配布し、各チームでのアイデア創出のための参考にさせていただきました。

学生たちの反応・感想

- この授業を受けて一番の収穫は自分自身を分析できるようになったことだと感じています。活動を通して自分が得意なこと苦手なことがわかったり、メンバーや先生方からの評価を聞くことで自分を見つめ直すことができました。この授業の中でわかった自分の強みは言語化する力とファシリテーション力だと思いました。
- 心理的安全性はかなり大事だと感じました。言いたいことが言えないグループだと議論が深まらなかったりするという身をもちて感じる事ができました。
- みんなが妥協なくするからこそ、話し合いの方向性やゴールが変わることはよくある。その中でも、誰一人として妥協せず、また方向性が変わったときにそれについて丁寧に確認をとり、コミュニケーションを図ることの重要性を実感した。
- 重要なのは、「全員が同じゴールを見ること」と「目的が変わったら全員で急いで方向転換をする」この2つであると考えました。
- 今回のテーマは5Gという発展してきているものとSDGsという持続性を求めるものということでベクトルが違い、そのバランスを取ることが難しかったように感じました。しかし、テーマが幅広いことで多種多様な意見が出てきたり、専門分野があまり限定されないためメンバーそれぞれに活躍の場があったように感じました。

SDGsから中山間地域の地域医療システムを考える

学校名: 広島国際大学 名前: 成清哲也

対象	4年生	単元名	SDGs×システムシンキングで地域医療を考える
科目	地域医療システム論	目標	その1 中山間地域の実情を調べ説明できる。 その2 SDGsの17の目標を簡単に説明できる。 その3 システムシンキングを使って、地域医療システムの問題点の本質を説明できる。 その4 SDGsの観点から解決策を提示できる。
時間	9時間 (1.5×6回)		
参考資料	持続可能な地域のつくり方 SDGs(持続可能な開発目標) SDGsアイデアブック		

期待できる学習効果

- ・その1 これまで学んできた医療経営を統合して実践力を高められる。
- ・その2 SDGsのフレームを利用してゴールからバックキャストに考えられる。
- ・その3 システムシンキングの思考法を活用して長期的視点で物事を考えられる。

授業内容

- 第1回 SDGsとシステムシンキングを学ぶ
- 第2回 特定の中山間地域の実情を調査する。
- 第3回 調査結果を分析し問題点をまとめる。
- 第4回 問題点の因果関係を整理し課題を設定する。
- 第5回 スライド作成/リハーサル
- 第6回 発表会

今年度は、コロナ禍の中でZoomを使用したオンライン授業となった。

そのため、反転授業として、オンデマンドで知識を補完し、オンライン(リアルタイム)でグループワークをする授業形態とした。

- 第1回 SDGsとシステムシンキングを学ぶ

SDGsを聞いたことがあるという学生は7割にいたのに対して、フルスペルか日本語訳で言えた者は皆無であった。

SDGsが生まれた経緯、17の目標と目標は関連していること理解させる。また、システムシンキングの、全体を俯瞰する、時間とともに作用が変わる、循環作用に着目する、結果ではなく役立つこと探す思考法であることを理解させる。

- 第2回 特定の中山間地域の実情を調査する。

広島県は、瀬戸内海に面した比較的人口が集中している地域と、少子高齢化と共に急速に人口減少している中山間地域・島嶼地域がある。実際に調べてみて、数字からどのような状況であるのかまとめさせる。

SDGsから考える中山間地域の地域医療システムを考える

学校名: 広島国際大学 名前: 成清哲也

授業内容2

第3回 調査結果を分析し問題点をまとめる。

これまで問題分析手法は学んできているので、チームビルディング・ファシリテーションに重点を置いて指導する。しかし、Zoomのブレイクアウトセッションで少人数になると、多くのグループの活動が低調であった。

第4回 問題点の因果関係を整理し課題を設定する。

今回最も大切にしたい、因果関係とデータに基づいた検討を中心にグループごとに指導する。また、バックキャストでストレッチしたゴールをイメージして課題設定するよう誘導する。

第5回 スライド作成/リハーサル

スライド作成技法、プレゼンテーション技法をグループごとに指導する。

第6回 発表会

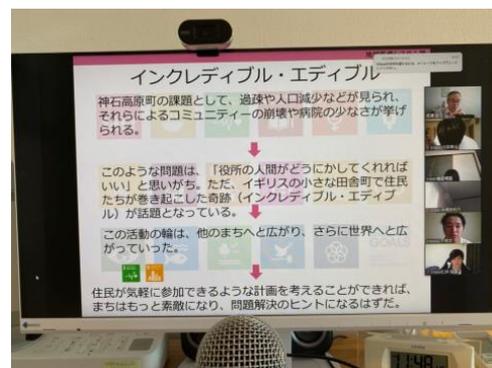
各グループ単位に発表しディスカッション、評価する。

評価は、必要要件(最低限のコンテンツ、発表時間等)、ロジック、デザイン、プレゼンテーションの合計点で評価する。

最後に、全グループの目標はSDGsのどのゴールであったか、どうしてそのゴールがたくさん選ばれたか、逆に選ばなかったゴールは何かを振り返り6回の授業をクロージングした。

子どもたちの反応・感想

- SDGsの取り組みを行っている企業や団体はまだ少ないが、これから広まってほしいと考えた。
- 講義を通して、グループ毎に分かれて決めた地域医療について考え、その調査結果の発表をした。グループごとに伝わりやすさ、理解しやすさにバラつきがあったことで、調査しデータを集めるだけでなく、いかに相手に伝わりやすく発表するかを工夫するといった、アウトプットの大切さを再確認する事ができた。



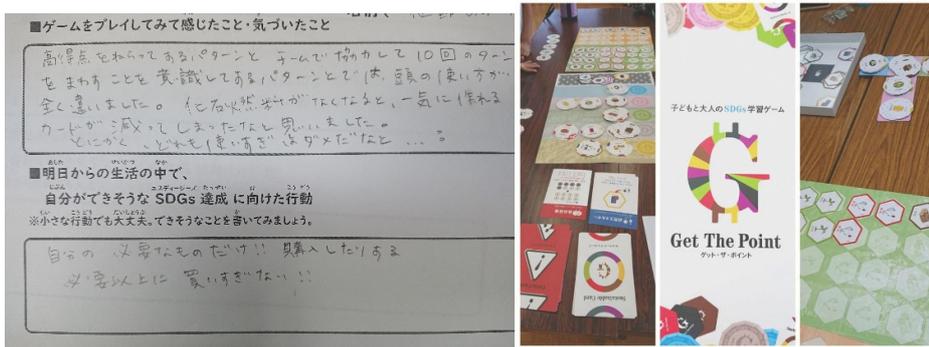
SDGsに関するワークショップ実施報告書

益田市吉田公民館

実施報告

報告者：吉田公民館 八坂美恵子

1. ワークショップ名：SDGs カードゲームお試し会
2. 実施日時：令和3年10月7日19:00~20:30
3. 実施場所：益田市市民学習センター101号室
4. 参加者：4名（高校生1名、小学生1名、大人1名、公民館職員1名）
5. ねらい：SDGsに興味を持ってもらう
6. 内容：自己紹介、SDGsのお話（『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』を使って説明）、カードゲーム実施（Get The Point）、感想共有
7. 参加者感想：SDGs達成のために自分でできることをしていきたい（ゴミの分別、余計なものは買わない、ペットボトルのゴミを減らすために水筒を持ち歩く）
8. 活動写真



1. ワークショップ名：オンライン コーヒーワークショップ
2. 実施日時：令和3年12月4日14:00~16:00
3. 実施場所：益田市市民学習センター202号室
4. 参加者：9名（中学生1名、大人5名、公民館職員2名、講師1名）
5. ねらい：ドリップコーヒーの上手な淹れ方を学び、コーヒー問題やSDGsについても考えてもらう
6. 内容：自己紹介、SDGsのお話（『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』を使って説明）、SDGs的視点で考えるコーヒーのお話、コーヒーの淹れ方、実践、感想共有
7. 参加者感想：コーヒーからSDGsを考えるととは思ってもみなかった/SDGsの視点も大切だと思った
8. 活動写真

SDGsに関するワークショップ実施報告書

益田市吉田公民館

実施報告



1. ワークショップ名：カードゲームをして SDGs について考えてみよう
2. 実施日時：令和 3 年 12 月 28 日 10：00～11：30
3. 実施場所：益田市立吉田小学校会議室
4. 参加者：10 名（小学生 5 名、大人 2 名、公民館職員 2 名、講師 1 名）
5. ねらい：カードゲームをしながら SDGs について考える
6. 内容：自己紹介、SDGs のお話（『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』を使って説明）、カードゲーム実施（Get The Point）、感想共有
6. 参加者感想：自分だけが豊かになるようにという考えではなく、みんなが幸せに豊かに過ごせるように考えることが大切だと思った/資源を大切にすることはいいことだと思った/次の世代に資源を残すということはとても難しいと思った/資源には限りがあるので考えながら生活することが大切だと思った
7. 活動写真



SDGs授業実践報告

まなびバ！シリウス(オンラインフリースクール「風のがっこう」)

実施報告

学校名：まなびバ！シリウス（オンラインフリースクール「風のがっこう」）

学年：小1～中3（異年齢での学び合い）

活動の名前：「Think the EARTH 地球プログラム～地球人として地球のことを考える」

活動のねらい：学校が合わなかったりコロナによる自主休校で学校での学習機会を持つことができなかったりする小中学生を対象に、地球に暮らす一員として地球のことを考え、SDGsを知るきっかけを渡すことをねらいとする。

教科名：総合

指導者：安楽岡 優子

生徒数：9人（+最終日見学者2名）（+保護者3名）

参加：小1（3名）、小3（2名）、小4（1名）、小5（1名）、
中1（1名）、中3（1名）

見学：小2（1名）、中2（1名）

活動の要約

実施時期：3学期

実施回数：50分授業×5回

実施方法：オンライン

「風のがっこう」（オンラインフリースクール）では、週2回（火・水曜、9～12時）、学校が合わない不登校状態の児童生徒やコロナにより自主休校をしている児童生徒が、全国からオンラインで集まって交流活動をしています。登録者数約80名、定期的参加児童生徒数約20名。その子どもたちのなかで、地球のことをともに考えるプログラム参加希望の子どもたちとSDGsについて知り、寄贈いただいた本を読んでわかったことをまとめたり発表したりしました。1・2年生についての参加は、オンラインによる実施のため、本読みでの漢字の難しさもあり、サポートとして保護者さんにも参加してもらいました。

活動の流れ

【第1回：地球人としての意識を確認する】

日時：2022年2月8日（火）10:50～11:40

授業の流れ

- 1) Googleアースでスタッフがいる場所から上昇し、オンラインで参加しているお互いのメンバーがどこにいるかを確認しあう
※上昇していくと地球が見えてくることに気づかせる
- 2) 地球を旅するとたくさんの人に会ったスタッフのエピソードを聞く
※身近な人が行った場所・出会った人たちの写真を見せることで、擬似体験につながる
※Where are you from? I am from the EARTH. のやりとりのエピソード
- 3) 地球人として、わたしたちのふるさとして地球のことを考えることを伝え、地球のすてきなところを発表し合う
- 4) SDGsのことを知る
※本を開いて、17の目標があることを見つける

SDGs授業実践報告

まなびバ！シリウス(オンラインフリースクール「風のがっこう」)

実施報告

【第2回：SDGsについて知り、目標のなかから気になるものを見つける】

日時：2022年2月9日（水）10:50～11:40

授業の流れ

- 1) 前回の流れを確認する
- 2) 「SDGsってなんだろう」の動画を視聴する
- 3) 17の目標のなかで気になる目標を選ぶ
- 4) 寄贈本「未来を変える目標 SDGsアイデアブック」の見開きシートから、目標を切り取り、シートの中におき、周りに気になることをメモする
- 5) その目標について書いてある本のページを開き、読む
- 6) 本を読み、初めて知ったことやわかったことなど、シートに書き足す

【第3回：SDGsについて知る】

日時：2022年2月15日（火）10:50～11:45

授業の流れ

- 国連のゴー・ゴールズすごろくで遊ぶ
※途中のクイズでSDGsの問題に挑戦する

【第4回：自分で決めた目標について、文字にしてまとめる】

日時：2022年2月16日（水）10:50～11:50

授業の流れ

- 1) 国連のゴー・ゴールズすごろくの続きをする
※途中のクイズでSDGsの問題に挑戦する
- 2) 自分で決めた目標についてわかったことを友達に伝えるために、オンラインノートにまとめる

【第5回：SDGsの目標についてわかったことを発表する】

日時：2022年2月22日（火）10:50～11:55

授業の流れ

- 1) わかったことを発表する
- 2) お互いの目標のことを知り合う
- 3) 今後の自分の生活の中にSDGsや地球人として何を考え何をたいせつに生きていくか、スタッフの話聞く

授業を終えて

オンラインフリースクールでの今回の授業では、年齢もバラバラ、かつ、オンラインでの実践であったため、5回設定では時間が足りなかったというのが正直なところです。レポートまとめが分かったことを数行書く程度で終わった子もありますが、毎回授業が終わると「SDGs楽しい!」という子どもたちやすごろくのクイズで「SDGsに関係することだね!」という小学校低学年のこどもたちの姿、そして、友達の調べたことを真剣に聞いたり、友達の調べた目標の本のページを自分からすすんで開いている様子があったりと、その子その子なりに、地球について、SDGsについて自分ごとになり始めている姿を見ることができました。